きらぼし 36号

子どもの未来は日本の未来

10月27日は、当団体の小学生対象事業「子ども料理探検隊」の開催日でした。毎月テーマを変えて子どもたちは様々な調理に挑戦しています。10月はいつもの調理室から飛び出し、5月に植えたさつまいもを収穫しました。

プログラム終了後、体験中の子どもたちの写真がスタッフから筆者に沢山送られてきました。大きなお芋を掲げている子、芋のツルをおしゃれに帽子に巻いている子や縄跳びにしている子、ツルで大きなリースを作った子たちなどなど、どの写真からも今その時間を楽しんでいる子どもたちの笑顔があふれていました。

身近なもので工夫と遊びを創造する発想力、なんという**みずみずしい感性**でしょう。何ものにも縛られず、五感を使って自由に思いっ切り遊ぶ。子どもたちはまさに「遊ぶ権利」を体現していました。ワクワク、ドキドキは日常の中に、子どもたちの周りにたくさん溢れています。子どもたちには、そのような日常が保障されることが大切です。

昨今、子どもや子育て家庭を取り巻く問題として、予期せぬ妊娠、若年妊娠、子育て家庭の孤立化、子ども虐待、子育て家庭の経済的困窮、ヤングケアラーなどは広く認知されていますが、それらに加え最近では、「子どもの体験の格差」という問題も浮上してきています。この問題は前述した諸問題に起因しているところがあります。それらの問題は簡単に解決できるものではありませんが、子どもたちに多様な体験を保障することは、行政・企業・NPOが連携して取り組めば可能だと考えます。

最近の「きらぼし」では**≪子どもの権利≫の重要性**を「子どもの権利条約」や策定予定の「桑名市こどもの権利条例」に基づいて述べてきました。三重県では、「こども条例」が「こども基本条例」と名称変更され改定が進められていることと「子どもを虐待から守る条例」も改定が進められていることもお伝えしておきます。

ただし、条例が出来てもそれは理念が謳われ目標が決まっただけのこと。**条例を活かし、実現させていく**ためには、今の子どもたちの状況を危機的状況であると捉えること、そして待った無しの対策を講じることです。と、ここまで書いて、何度同じことを述べて、また書いてきたかと思いました。しかし、くじけずに現場から丹念に何度でも声を上げていきたいと思います。

＊10/27の「子ども料理探検隊」の詳しい様子は、本紙とネットワークくわっこホームページからインスタグラムをご覧ください。

子ども料理探検隊

対象　小学3，4年生

第4回　9月8日「魚丸ごと煮て、耳石をゲットしよう！」

毎年実施するプログラムです。魚をハサミでさばき、尾頭付きで煮て、頭から耳石を探しだすというものです。

普段そのままの姿の魚を見ることも、ましてやさばくことのない子どもたち（大人もそうですよね）の**好奇心**を存分にくすぐります。最初は気持ち悪そうにさわっていた子どもも、魚の構造の不思議さに気づいたり、煮た後のおいしい香りに、そんな気持ちも忘れ、みんなきれいに食べて、頭から耳石を探しだしました。心臓を見つけた子もいて、周りのメンバーも「どれどれ？」と教えてもらい探していました。

第5回　10月27日「さつまいもを収穫して食べよう♪」

今年は雨も少なく、猛暑だったのでさつまいもの成長が心配でした。でも、とても大きく成長してひと安心。子どもたちは力強くでもていねいに傷がつかないように掘りました。ドラム缶で焼き芋もでき上がり「焼き芋のいいにおいがしてきた」と集まってきました。ホクホクで秋の午後にふさわしい温かさを楽しみました。帰りの田んぼ道には引っ付き虫の草があり、人にくっつけながら歩きました。

笑いと元気な声で満ち満ちた一日でした。みんなお疲れ様でした。

ネットワークくわっこ夏休み企画◆みんなのまち桑名を学ぼう！

『“地域の先生”から桑名の災害・防災を学ぶ』
8月20日㈫　木曽川下流河川事務所にて　小学生4年～中学生7人　大人8人

桑名市防災危機管理課の方、伊勢湾台風の語り部の方、河川事務所の治水課の方々のお話を聴きました。
災害が起こった時それぞれのいる場所によって避難や災害の内容が違うこと、**自分で判断して命を守る行動をとること**。そのためには普段から避難用品を準備しておく、避難の方法を話し合っておくということが大切という、講師の方々の共通した言葉でした。
会場上階より多度山から木曽川下流域を見渡して、自分たちの住んでいる桑名の地形を理解してから、伊勢湾台風被災時の状況のパネル展示を見て、ふだんの様子との違いを実感し、当時の被害の大きさを想像しました。
また、伊勢湾台風の状況やその後の生活の様子など実体験を聴きました、災害時の心構えや周囲の人々と助け合うことの大切さなど教えていただき、貴重な機会となりました。
桑名市のハザードマップを活用して地域が浸水時にどのような状況になるか調べ、各家庭ごとのマイ・タイムライン（防災行動計画）を作成しました。
参加した子どもたちは、後日発生した東海地域への台風情報を、今までよりも興味を持って知ろうとする姿があったということも聴こえてきました。

ボランティア講座

参加者：中学生８人、高校生６人、一般１人の計１５人

8月28日は、ボランティア講座最終日。「にじっこ夏まつり」のスタッフ体験の日でした。夏まつりの参加対象は、乳幼児と保護者です。小さい子どもたちが夏まつりの雰囲気を楽しめるような遊びを考案し、当日は、にじっこスタッフと一緒に夏まつりを開催するというものです。
講座２日目（6月23日）に、にじっこスタッフからレクチャーを受けた後、夏まつりの遊びを考え、お面作り、魚釣り、ペットボトルボウリング、マラカス作りをすることに決定。受講生たちは、講座終了時間ギリギリまで、担当するコーナーに必要なグッズの作成に取組みました。作成を終えることが出来なかった魚釣りグループは、夏休みにネットワークくわっこの事務所に集合し準備を終えました。
そして、本番の8月28日。お面作りのグループは、お面屋さんのお店のデコレーションにこだわったり、ペットボトルボウリングのグループは、小さい子どもが倒せるようにペットボトルに入れる水の量を調整したりと、開場ギリギリまで準備に追われていました。開場となると来場する親子を緊張した面持ちで迎えていましたが、小さな子どもたちがそれぞれのコーナーで遊び始めると、一生懸命相手をする様子が見られました。
この“遊び作り体験”は単に幼児と楽しく遊ぶというものではありません。参加したボランティアの人たちの**自己肯定感を高める大切な体験**です。自分たちの成長を支え、一緒に喜び、見守ってくれた人たちがいることに気づくことで自分は愛されていると感じ、今度は自分たちが見守っていく立場になれると自信が持てるのです。

☆受講生の感想から☆
「最初は緊張して中々子どもと話せなかった」「始まる前は子どもたちとどのように接していいのかわからなかった」「ボランティアの仲間と協力することができてよかった」「小さい子たちが楽しんでくれてよかった」「笑顔でバイバイと言ってくれて嬉しかった」
その後、受講生たちは、当団体の「子ども料理探検隊」スタッフや、桑名市市民活動センター主催の事業（「シニアのスマホ講座」講師、９８７ジュースの販売と寄付活動、市民活動団体サマーフェスタなど）のスタッフとして活動しています。

にじっこ～乳幼児と親子のふれあい教室

今年度もにじっこは乳幼児の親子で共に楽しい時間を過ごすことを目指して活動しています。
参加者やスタッフを募集しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

【にじっこ（通年）】全16回開催。年度途中からの参加、体験参加も受付けています。
広い会場で、リトミックや手遊び、からだ遊び、季節のイベントなど、様々な内容を取り入れて、親子で楽しく過ごします。また、通年で実施しているため、参加者とスタッフは毎月一緒に遊び顔なじみとなります。会場に入ると開始前から、スタッフとのかかわりを楽しみ、室内全体を使って体を動かす姿が見られます。親子ともに安心感と解放感の中でゆったりと思いきり楽しむことができます。１年を通しての子どもたちの成長をスタッフも一緒に喜び合える場所です。
また、活動内容も静と動のバランスを考えており、製作などの静の遊びは、とても集中して取り組む姿が見られますし、動の遊びでは、子どもたちから自然と遊びが生まれ、そこから更に遊びが展開していくこともあります。

にじっこ前期が終了しました。9月、10月の終了した活動です。
- 9/11（第5回）ボールであそぼう　▪9/25（第6回）おもちゃをつくってあそぼう
- 10/9（第7回）ミニ運動会　▪10/23（第8回）ハロウィン

前期最後のハロウィンは、英語×ハロウィン。今回は単発参加も受け入れました。前半は今年も☆Smiling　Stars☆のNAO先生を講師に迎え、ハロウィンの雰囲気の中、英語でのふれあい遊び、後半はゲームを楽しみました。

★11月より後期８回分が始まります。年度途中からの参加、体験参加も受け付けています。

【にじっこ夏祭り】8/28に実施。　　「ボランティア講座」とタイアップして開催。
講座参加の中学生～大人が考え、準備した遊びを親子で楽しみました。
当日は、講座受講生がゲームを担当し、盆踊りも一緒に踊り盛り上げてくれました。
参加者の中には、受講生のお兄さんお姉さんに懐いている子もいました。

【ファミリーリトミック】11/9に実施予定。
前回まで「0～４歳とその家族」を参加対象としていましたが、今回より「未就学児とその家族」に参加対象を拡大。
今回を含め、あと2回開催予定です。

『にじっこ』やその他の企画などは、ブログから様子をご覧になれます。
ご興味のある方は、ぜひブログをご覧ください。

くわなメディアライヴ１階　託児室「プレイルーム」から

◎開室時間…9時～１８時
◎対象年齢…概ね生後３か月の乳児から就学前の児童
「選べる桑名子育てリフレッシュ事業」のうち、**「一時預かりサービスチケット」利用可能施設**として、プレイルームを選択していただくことが可能です。
★利用の１か月前から予約受付を行っています。

室内を見学したい方、利用の仕方を知りたいなど何でもお気軽にプレイルームにお問合せください。　　TEL（0594）24－1434

≪子育て憩いの広場≫から

「子育て憩いの広場」 桑名市ふれあいてんげんプラザ2階
桑名市鍛冶町9番地　　0594(25)2003
この事業はネットワークくわっこが桑名市から委託・運営しています。

「子どもとゆっくりボヤっとできるところがないかな？」と思ったら来てね！

子育ては、ままならないことの連続です。時には子どもに対して声を荒げたり、ため息ばかりが出たり、涙が出ることも。それでも子どもの寝顔を見ると愛おしく思えるものです。

子育て支援センター・憩いの広場では、子育て中のお母さん、お父さんが気持ちを吐き出せる場所になるよう、まずは、しっかり話を聴くことを心掛けています。

「共感」というと、その人の気持ちを理解するような意味と捉えられがちですが、人の気持ちを本当に理解することは難しいことです。寄り添って、横に並んでたたずむような姿勢を大切にしています。何とはなく話しているうちに気持ちが晴れることはよくありますよね。

子育て支援センター「子育て憩いの広場」は“駆け込み寺”です。

無理をせず我慢せず、SOSを発信してください。「つらい」「しんどい」「助けて」が言える場所です。

電話相談もできます。気軽に遊びに来てね！誰かと話すだけで気持ちは変わる！

＜子育て支援センター憩いの広場講座＞　「ウェルカムベビープログラム」

★赤ちゃんが生まれるまでに育児のアレコレを体験してみましょう。
妊婦さん同士おしゃべりしたり、助産師さんに質問したり、
出産前のゆとりがある時に安心を手に入れませんか！

対象：妊娠中の方とパートナー
参加費：全３回　１，０００円

参加者受付中！

〇11月実施（１１月３０日、１２月７日、１４日）
〇2025年3月実施（３月８日、１５日、２２日）
●お問合せは『憩いの広場』にご連絡ください。

賛助会員のみなさま
応援ありがとうございます。

- 瀬古利彦様
- ミズタニセイキ様
- 大善鉄工株式会社様
- 株式会社日永屋様
- 法盛寺様　▪御菓子司保々屋様
- 五大茶屋様
- エスケー電気工事株式会社様
- 株式会社新技術グローバルコンサルティング
- 竹内ひろ子様
- その他個人４名様

＜秋から冬へ温かさを届けてくれる１冊＞

『たのしいふゆごもり』
作：片山　令子
絵：片山　健
出版社：福音館書店

冬支度のために母子で森に出かけて、忙しい1日を過ごす。うちに帰って、おいしい食事をしながら今日のできごとをあれこれ話す子熊にお母さんは優しく語り掛ける。たくさん書き込まれたイラストを眺めているだけでピースフルな気持ちになる。

●編集・発行・問合わせ
NPO法人ネットワークくわっこ
〒511－0073
桑名市北寺町61
TEL　＆FAX　０５９４－２１－０５０１
E mail　kuwakko@par.odn.ne.jp

ホームページを見てね。
いろんな活動を紹介してます。

ネットワークくわっこ

*Instagram*も見てね